

職員による自己評価	保護者による評価
<p>A 環境面 基準の倍の面積を有する。スペース的には問題ないが傾斜の強い階段があることが課題。窓の補強や角のクッション等は行っている</p> <p>B 児童への支援内容 安心と安らぎ空間の提供を心掛けており、その上で個人の特性に合わせた、きめ細やかな支援を目指している</p> <p>C 関係機関との連携 医療や各種支援機関、学校などとの連携は一部で実施しているが、十分ではない。</p> <p>D 保護者への説明責任・信頼関係 ご自宅送り時などの機会を利用して丁寧な説明を心掛けている。職員のスキルアップを通じて信頼関係を重ねていく必要性を感じている。</p> <p>E 非常対応 1階の学童と協力し行動することを確認し合っている。急傾斜地防災マニュアルと消防計画を策定済みであるが某策訓練が不十分。</p>	<p>A 環境面 活動スペース広さなどは高評価、手すりやスロープなどバリアフリーは通常だが、入口の急な階段が怖い、暗い</p> <p>B 児童への支援内容 職員の専門性について、資格や専門的な知識があるか提示してほしい。保護者のニーズ反映や課題を客観的に反映した個別支援計画の作成については高評価。</p> <p>C 事業所からの情報発信 コロナ禍で面談を控えていることに対して「面談がないのでは」との声があった。反面「仕事が多忙なため面談なしで助かった」との記述も多数あった。</p> <p>D 非常対応 子どもは通所を楽しみにしているかについては高評価。休日の利用時間がもう少し早いと助かる。</p>



【共通点】

規画面積 68 m²の2倍の面積 138 m²を確保しているため、スペース面では良好な状況といえるが、階段の勾配がきついため、移動時の安全配慮が必要。個別支援計画については、それぞれの特性に適応した支援内容を盛り込んでいくことが重要。避難訓練等防災対策が不十分。

コロナ禍のため面談期間を設定していないため「面談がない」との声があったが、個別の問い合わせや、特に今期は教育相談が増えている。経験豊富な職員が対応している。

【相違点】

保護者への説明、及び育児への助言等双方向の情報伝達が、事業所が思っているほどには保護者に伝わっていない。子どもたちが、この事業所をどのように評価しているかについては、職員の評価は低いと感じていたが、保護者を通じた子どもの意見は案外高い。職員のスキルについては多様的で判断しづらい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・階段など改善すべき部分は認められるがスペース、シャワー室、休憩室の設置など優れた施設を整えている。
- ・宿題タイムにおいては、経験を積んだ元教員が細かいところまでフォローしている。
- ・感染予防を徹底し、参加型おやつを楽しんでいただいている。
- ・働いている保護者の方のために、19時までのサービス提供時間としている。
- ・階下で同一法人の運営する学童保育が運営されているため、今後は慎重な検討を踏まえ、交流機会を企画していくことが可能

事業所の改善点

- ・職員が少ない状況にあるが、専門的なスキルを高めるため、様々な研修の受講や、他の事業所をはじめ関係機関との連携強化が急がれる。
- ・避難訓練等防災対策が不十分であり、早急な対策を施す必要がある。家庭連携など更に連携強化に努める。

事業所の改善への取り組み

- ・日常生活、学習、運動、戸外活動、他者との交流を通じたコミュニケーション能力の向上など、個性に見合った多様なプログラムを企画し、保護者と慎重に相談の上、順次具体化していく。
- ・非常時に備えた様々な訓練を早急に実施するとともに、災害備蓄品の充実が必要。なお、階下の学童保育所（六ツ川みどりアフタースクール）との共同での準備が効率的である。
- ・中学生、高校生には社会的な自立に向けて、学習、作業、会話術を活用したコミュニケーション能力の向上など、具体的な支援プログラムを提案する必要がある。
- ・新1年生には、まずは安心してくつろげる居住空間を提供することが重要。

ややもすると、見失いがちな支援方法や設備の見直し、職員のスキルアップ、保護者の同意を事由としたプログラムの革新性の欠如など、保護者のアンケートや職員による自己点検を通じて改めて客観性をもって見直す機会となった。